

私立 東洋英和女学院大学

卒業生活用による就職の早期意識化と基礎学力強化による就職支援

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32
設置者	学校法人 東洋英和女学院

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

【目的】

準備不足のまま就職活動に入ってしまう学生や、数学等の基礎学力が不足しているために筆記試験に落ち続ける学生は、就職活動が長引いて学力を修得するための学業に打ち込めない、就職できても満足感が低いという問題を持つことが多い。こうした状況を改善するのが本プログラムの目的であった。

【内容】

準備不足には、入学後の早い段階に「キャリア設計」の授業を配置する、卒業生に職業経験を聴いたり就職相談をしたりできる機会を設ける、ポートフォリオの活用によってポジティブな「態度・志向性」を養うことによって対応することにした。基礎学力の不足に対しては、数学、日本語、英語の自学自習教材の提供や個別指導などの学習支援体制を整備することにした。

到達目標

学生の基礎学力が向上し、就職を早い段階から意識して計画的な大学生活を送るなど、学生の「態度・志向性」がポジティブになることによって、就職活動期間が短縮されること、就職満足度が上がることが最終的な到達目標であった。また、本事業を通して大学の教育機能が強化されることも期待した。

プログラムの実施内容

1. 就職の早期意識化のために

- ① 1年次前期必修科目『キャリア設計』の開講とオリジナルのテキスト作成
- ② ポートフォリオの開発と活用指導
- ③ 卒業生講演会（就職相談の同時開催）
- ④ 企業人の講演会（企業が求める人材、仕事の選

び方、情報の活用の仕方）

- ⑤ 卒業生のライフコース調査
- ⑥ 1、2年生対象の個別相談（就職相談員配置のための助成金増額後）
- ⑦ 1、2、3年生対象の「自分みがきセミナー」と「企業見学会」の開催

2. 基礎学力強化のために

- ① 一般常識・基礎学力テストの実施による学力の把握
- ② スタディカフェの開設と本学オリジナルの自学自習用演習問題集の作成
- ③ スタディコンサルタントによる個別指導（数学、日本語表現、英語）
- ④ スタディコンサルタントによる集中講座
- ⑤ 能力検定試験（ニュース検定、TOEIC IP、数学検定、漢字検定）の学内実施
- ⑥ ブッククラブの創設と運営（読書会の開催、書評のリーフレット発行）
- ⑦ 基礎学力強化に向けた意識改革と学力強化策を探るシンポジウムの開催

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

- ① (初年度)事業開始当初の10月17日と24日、1、2年生を対象に「一般常識・基礎学力テスト」と「卒業生講演会」を実施したのに合わせて、本事業の説明会を開催した。(本事業の主対象は初年度の1、2年生からとした)
- ② (2年度目から)1年生全員必修の『キャリア設計』の授業時に口頭で説明するとともに、テキストにも記載している。また、事業への参加・活用を大学生活に組み込むよう指導した。
- ③ (2年度目から)スタディカフェの説明と利用促進のため、年度初めに1年生を対象にゼミ単位の

利用体験会を開催した。

④(初年度から)講演会やセミナーへの参加、一般常識・基礎学力テストの受験、各種能力検定受験、スタディカフェの利用等について随時、ポスター、チラシ(ゼミの担当教員から配布)、Web キャンパスにて周知を図った。

⑤(初年度から)ホームページでも本事業について説明した。

2. 当該プログラムの成果

①自己評価は、どのような観点で行ったか

- a. 学生の「態度・志向性」にポジティブな変化が生じたか
- b. 基礎学力は向上したか
- c. 就職活動期間は短縮したか、就職への満足度は高まったか
- d. 大学の教育機能は向上したか(教員の意識と行動、学生支援体制の変革)

②到達目標に達したか。

a. 「態度・志向性」の変化については、体系的・客観的・数値的把握は技術的に難しく、自由記述の感想文による質的把握が中心となった。『キャリア設計』の受講後の感想(資料1)、卒業生の講演を聞いての感想(資料2)、キャリアコンサルタントへの個別相談後の感想には、不安が取り除かれた、将来を具体的に考えるようになった、学生生活の目標を持った、目標を達成できるよう頑張りたい、といったことが述べられており、「態度・志向性」にはポジティブな変化が起きている。しかし、これが持続し実行されなければ意味がない。これを検証するものの一つが基礎学力強化への努力、例えば、スタディカフェの利用者数、ニュース検定やTOEIC IPなど能力検定試験の受験者数である(資料3)。学生意識調査(by学生支援課)によれば、回答者のスタディカフェの利用率は高いとは言えないが低くもない(資料4)。以上をまとめると、学生の「態度・志向性」は向上しつつあると言える。

b. 基礎学力の伸びは、(株)ベネッセの一般常識・基礎学力テストで捉えた。基礎学力は大学教育を通して伸びるので、基礎学力の伸びが本事業に起因するか否かの判定は難しいが、資料5に見る「時事能力」の伸びは、本事業のニュース検定の学内試験実施とその対策講座によるものである。また、人間科学科の「自然科学」と「人文科学」の伸びは、1年次必修科目「知の構築講座」と本事業の連携によ

るものである。しかし、全体的には基礎学力は学年が上がってもさほど伸びていない(資料6)。以上から、基礎学力の強化については道半ばと言わざるえない。

c. 本事業の対象学年はそれ以前の学年比べて、就職活動期間が若干長期化し(前期の内定率の低下)、最終的な就職率もやや低下している(資料7)。しかし、雇用形態には変化がなく、就職への満足度も変化していない(資料8)。就職活動期間の若干の長期化と就職率の若干の低下は、経済活動の低迷の影響が大きい。就職活動期間の短縮、満足度の向上という目標を達成できたとは言えないが、外的環境を考慮すれば仕方ないことでもあった。

d. 大学の教育機能の向上については次のような成果を得た。

i) 就職の早期意識化に向けて立ち上げた必修科目『キャリア設計』の教育内容の充実と実施体制の構築、ii) 基礎学力強化のための「基礎教育委員会」の新設、iii) 本事業の基礎学力強化支援システムとの教育科目との連携の広がり(連携先教育科目:「知の構築講座」「日本語表現」「フレッシュマン英語」「国際社会特殊講義(時事問題)」)、iv) 本学学生の学力に即した演習問題集の開発、v) 基礎学力強化事業実施のなかでの気付きによる「トップグループを育てる取組」の開始、vi) 図書館司書による読書指導体制の構築、である。数値として示すことのできるものではないが、確実に本学の今後の教育の充実に繋がる成果である。

③具体的な成果

a. 就職の早期意識化による「態度・志向性」の向上に関する事業

i) 『キャリア設計』の授業内容を充実させ、学生から高い評価を得るに至った(資料1)。これには、初めはこの科目外で実施した卒業生講演会と企業人による講演会を科目のなかに位置付けたこと、5名の担当者がそれぞれの専門領域(健康科学、社会学、社会福祉学等)からキャリアの基盤や働き方について語る輪講、自己分析や働く人へのインタビュー、将来に向けた学生生活の設計等を行うワークショップなど、多彩な内容にしたことが大きい。

ii) 卒業生(西暦奇数年の卒業生)のキャリアに関するアンケート調査とインタビューを実施し、キャリア教育の貴重な基礎資料と教材を得た。特に、卒業生の就職活動や職業経験についての記述や後輩へのアドバイスは、在校生の学生生活の貴重な指針に

なるので、キャリア設計のテキストにも掲載した。調査結果の全体は、既存の卒業生調査と合わせて調査報告書として出版した。

iii) 増額された助成金によりキャリアコンサルタントを採用し、1～3年次前期の学生対象の個別相談を開始した。また、キャリアコンサルタントの企画による「自分みがきセミナー」と「企業見学会」を開催した(資料9)。これらを活用した学生は就職活動のための意識を高め、知識を広げることができた。

b. 基礎学力の強化に関する事業

i) 自学自習の支援のためにスタディカフェを開設し、数学、英語、日本語表現の個別指導を行うスタディコンサルタントを常駐させた(資料10)。また、一般常識・基礎学力テストの結果に基づいて学生の学力レベルに適合したオリジナルの問題集を作成した(資料11)。この問題集は連携授業科目を通じて、またスタディカフェに置いて、学生たちに取り組ませた。学生たちには利用しやすい、SPI対策になると好評である。

ii) ニュース検定、TOEIC IP、数学検定、漢字検定の学内団体受験の体制を作り、定期的を実施した。ニュース検定は初年度から、他は最終年度からである。ニュース検定については取組優秀校としてニュース検定協会から表彰を受けている。TOEIC IPについては対策講座や個別指導を行うとともに英語科目やいくつかのゼミと連携して行うなどして、受験機運が高まっている。数学は人間科学科1年次必修科目「知の構築講座」との連携で行っている。漢字検定も2012(平成24)年度からは「知の構築講座」と連携する。能力検定試験は学生たちには短期の具体的目標になり、学生たちの自学自習を支える有効なシステムであることが分かったので、さらに受験者を増やす仕組みを検討していく。

iii) 日本語表現力の向上に不可欠な読書習慣を広げるために、本好きの学生を中核にして、図書館司書の協力を得てブッククラブを初年度に組織し、事業期間中に計10回の読書会を開催した。読書会の各回の企画、広報、読書会の進行、振り返りの会まで、すべて学生が中心になって行うのを図書館司書がサポートした。ブッククラブのメンバーや図書館職員による書評を掲載したリーフレット『読書の森へ』を計5回、ブッククラブ学生有志の作品を掲載した文芸誌を計2回発行した。学生メンバーは2名から出発して9名になった。学生たちはこの活動を通し

て、企画力、表現力、発信力、協調性などを身につけながら確実に成長した。今後はこの活動は図書館の事業として継続していく。

iv) 本事業最後の取組として、基礎学力強化に向けた意識改革と学力強化策を探るシンポジウムを、基礎教育委員会、FD委員会と共催で実施した。プログラム構成は、実践報告(本事業の取組により把握した「学生の基礎学力の伸び悩む側面と伸びている側面」に関する報告、一部の教育科目で実践している基礎学力強化の取組内容と効果に関する報告)、日本リメディアル教育学会の創設者・初代会長の小野博氏の講演(「大学生の学力低下の現状と対応策—確実な学習と成果を求めて—)、今後の方策に関する討論であった。これにより教職員の間で基礎学力強化への取組の必要性が強く認識され、また、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めることが結果として学力向上に繋がることを知り得たことは大きい。このシンポジウムでの認識や知見を今後の継続事業に反映させていくこと、それを基礎教育委員会とFD委員会の協力で行うことにした。

v) (補足：外部評価委員による評価)取組の趣旨と内容については高く評価された。しかし、本学の教員たちを巻き込む力が弱かったのではないかと、どんな学生を育てるかというブランド戦略が必要との指摘を受けた。前者については改善に向けて既に動き出している。後者については、ブッククラブの読書会で本学卒業生の著書(共著)『シャネルの戦略—究極のラグジュアリーブランドに見る技術経営—』(東洋経済新報社)を取り上げた際に学生たちと話し合ったことがあるが、今後は学生を含めた学内で広く議論を起し、新時代に即した英和ブランドを作っていきたい。

今後の計画

1. 本プログラムの成果の活用について

①対内的には、本事業で構築した就職支援や基礎学力強化の成果と課題をFD・SD活動の題材として教職員が共有し、本学の教育と学生支援の質を高める方策を考えていく。同様に学生に対しても成果と課題を公表し、本事業の継続・発展のために学生自身ができることは何かを考えさせる。

②対外的には、本事業の成果を報告冊子にして公表するほか、ホームページ上にも公表して他大学に活用してもらいたい。また、指定校推薦等であつながら

りのある高等学校と連携し、入学予定者には本事業で作成した演習問題集の活用や能力検定試験の受験による基礎学力強化努力を促したい。

2. 今後の計画

以上の事業はすべて継続するが、更に発展させるための計画は次の通りある。

①就職の早期意識化に関して

i) 1年次前期の『キャリア設計』受講後、就職活動を開始するまでの学生に対するキャリアコンサルタントによる継続的指導を強化するために全員面接を行うこと

ii) 1～2年生対象“自分みがきセミナー”と3年生対象のキャリア就職課主催の就職講座に継続性を持たせること。

以上を就職委員会及びキャリア就職課の下で実施する。

②基礎学力の強化に関して

i) 教育科目（知の構築講座、日本語表現、英語）とスタディコンサルタントとの連携の深化（個別指導が必要な学生の重点的ケア）

ii) 教育科目の指導による各種能力検定受験者数の拡大

iii) 学ぶ意欲を増進するコミュニケーション能力開発講座の実施。以上を基礎教育委員会とキャリア就職課の下で実施する。

就職未内定者への支援策

1. 内定（内々定）のピークを過ぎても内定（内々定）を得られない者への支援策

・学生の自己分析を見直すことによって、能力・適性を再検討するとともに、単にあこがれだけで企業に応募していなかったか振り返り、業界や職種を広い視野で見直すように気付きのチャンスを与える。

・一方で新卒学生の採用に積極的な地元の中堅・中小企業の開拓を進め、本学の学生の志望する職種の紹介に努めている。

・心理的なフォローアップを継続するため、1～2か月ごとに定期的に電話してコミュニケーションを欠かさないように努めている。

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

・大学宛に届いた求人のうち、「既卒者でも応募可」と明記してある求人票については、求人票をPDFに変換し、メールに添付して送信している。なお、個別相談は随時、優先的に受付けている。

・卒業生の自宅に近い「新卒応援ハローワーク」に登録を促すほか、たとえば神奈川県新卒未就職者等人材育成事業など県内の就職支援プログラムを紹介して、応募の機会を欠かさないようにアドバイスしている。

資料

◆資料1 『キャリア設計』を受講した学生の感想

*私は1年の前期にこのキャリア設計の授業を受けることができて、とても良かったと思います。毎週授業を受けることは、自分の決めた目標を行動に移す活力源になりました。これからも目標を見失わず、日々頑張っていきたいと思います。

*この講義を受けて、社会が必要とする基礎力や自己の可能性について知ることができ、将来についての目標を短期的ではあるが立てることができた。長期的目標も立てていきたい。

*この授業のおかげで、1年生のうちから目的をもって学問に励むことがいかに大切かが分かった。主体的、積極的の学びを支える、とても良い機会であった。

*初めは、大学1年生でキャリア設計をやるなんて早いのではないかと思っていた。しかし、新聞の読み方、情報収集の仕方など、まだきちんとわからない私にはとても役立ったと思う。この前期で学んだことを活かし、4年間でいろいろなことを身につけていきたい。

*とても役に立ちました。大学に入って甘く見ていた私に、しっかり立って歩けと言われていたようで、ちゃんと今から計画していかなければならないと思わせてくれたからです。大教室で行う講演会はどれもすばらしく、聞いていて新しい価値観が見えてきました。特に卒業生の講演会は楽しく、充実していました。自分の性格などは普段なら気にもしないことです。それを多面的に考えて文章にすると、私はこう思っているんだと新しい発見になりました。体力が大事というのもその通りだと思いましたし、もう一度見直して、自分がしたいこと、それをするためにはどんなことをしたら効果的なのかを、長い夏休みに考えたいです。

*もともと卒業後の進路は就職を志望していたので、キャリアについての授業があるのは有難いと思いました。通常の授業では、職場の現状や学生時代にしておくことについては学ぶことができないので、この講義を受講した甲斐があったと思います。この授業を通して就職願望がますます強くなりました。ここで学んだことを活かし、志望する就職先に内定をもらえるように努力していきます。

*将来のために今すべきことをよく考えた授業でした。今の自分は将来の目標が曖昧で不安定であることを、この授業を通して改めて感じました。いろんな先生の講演や卒業生の先輩方のお話を聴いて、やるべきことを先延ばしせず、時間がある今のうちにやることの大切さを学ぶことができたのでよかったです。

*この授業を受けて、社会に出て働くということを知ることができた。卒業したらそのまま就職できるものだと思っていたので甘かったと思う。大学生のうちに見つけておくべき力や、経験しておくべきことがたくさんあった。自分がより豊かな人生を送るためには努力が必要。資格取得や勉強、サークル活動に励みたいと思う。

大学生のうちにやれることは全部やろう！積極的になろう！と、この授業を受けて思った。

◆資料2 卒業生講演会の感想から

* 3人のお話を聞いて共通していたことは、大学生活は自由に時間を使える唯一の時だということ。何をするにも自分次第なので、さまざまなことに挑戦すべきだと思った。これから2～3年後には私も就職活動をするようになるので、本当に参考になった。

* <略> ・Iさんが話していた、本当にやりたいことをみつけて、それに向かって努力していきたいと思いました。大学生活で一つも無駄になることはない聞き、とても勇気をもらいました。違う年代の友人や知人を増やすことも大事なことなんだと思いました。

* 今日の講演を聞いて進路についてすごく考えさせられました。大学生活は自分次第で濃さが変わります。勉強では知識が、アルバイトでは社会経験が養われます。遊ぶことでも感性が養われます。Tさんが、大学は自己成長のための場だとおっしゃっていました。就職活動をする時に、大学で自分は何をしたのか熱く語ることができる大学生活を送りたいと思います。

* 今日の講演を聞くと、今、自分が改善しなければならないことが沢山ありました。私は正直言うと、これから先、何をしようかと悩んでいました。大学に入って、とりあえず授業に出席して勉強して先生の話聞いていれば大丈夫だと思っていましたが、そういうことではないということがわかり、よかったと思いました。今、やらなければならないことは、長く熱中できるような、自分が興味をもてることをこれからの大学生活のなかでみつけること ・ ・ <略>

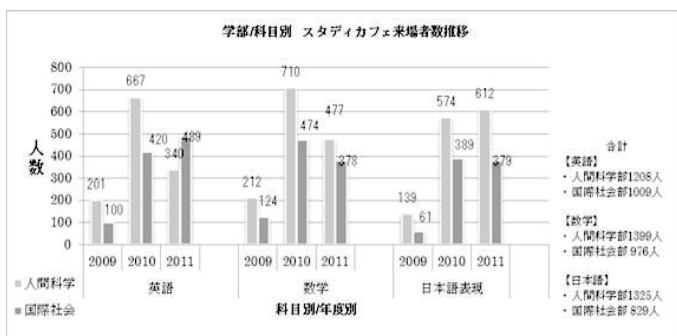
* 私は小さな子と接する機会は今までありませんでした。しかし、IさんやMさんのおっしゃったとおり、時間があるときに子どもと接する時間をつくることは非常に大事だと思いました。夏休みなど利用して保育のボランティアやアルバイトに挑戦していこうと思いました。

* 三人の先輩方のお話を聞いて、改めて自分の考えを見直すことができました。保育の勉強をしていても進む道はたくさんあるんだなと思いました。 ・ ・ <略> ・ ・ 自分の考えを見直すことができた貴重な機会でした。

* 今回の講演会では、今まで関心を持っていなかった仕事の話を知ることができて、職業に対する視野が広がった。学生のうちにやっておくべきことは、未来の自分にプラスになることであり、また、それは資格だけでなく自分から行動し、情報を収集することが最も重要であると感じた。今までは就職できればよいと考えていたが、Mさんの話から、自分のやりたいことや経験を生かせる仕事に就くことを改めて考えることができた。

* 私は数学が大の苦手な証券会社やITの会社には無理だと思っていましたが、「理系の人より努力はしないといけないが、その職業を選択肢から外さなくてよい」というMさんのアドバイスを聞いて安心しました。また、「論理的思考を訓練すること」を学生時代にやっておいた方がよいというお話から、「なぜそうなるか」を一つ一つ丁寧に考えることを習慣にしたいです。 ・ ・ <略> ・ ・ 私はまだ、どんな職業に就きたいのか決まっています。やはり、実際に社会に出て働いている先輩方のお話を聞いてよかったです。4年間を無駄にしないようにしっかり生きていこうと思いました。

◆資料3 スタディカフェ利用者数及び各種検定
試験受験者数



※2年目、3年目の延べ利用者はいずれも約3千人。人間科学部の方が多いのは連携科目が多いため。

<集中講座参加者数>

	数学	英語	日本語	合計
2010年春	17人	44人	11人	72人
2011年秋	52人	40人	—	92人
2011年春	89人	53人	13人	155人

<ニュース検定受験者数>

	2009年度	2010年度	2011年度	合計
受験者数	58人	250人	200人	508人
合格者数	39人	147人	81人	267人
合格率	67%	59%	41%	53%

<TOEIC IP 受験者数>

テスト実施日	受験者数
11.6.19	119人
11.10.22	53人
11.12.3	73人
12.2.12	96人
合計	341人

<漢字検定 受験者数>

テスト実施日	受験者数
11.11.5	2級：34人 準2級：3人
12.2.10	2級：46人
合計	83人

◆資料4 スタディカフェの利用状況と評価 (2011年度 学生
意識調査 Webによる)

調査期間：2011年12月16日(木)～2012年1月15日(水)

対象学生数：2,355人 回答数：449人(19.1%)

- (1)利用率
- 6回以上 … 18%
 - 3～5回 … 21%
 - 1～2回 … 32%
 - なし … 29%
- (2)利用内容
- 学力強化のために個別指導 … 7%
 - 演習問題の利用 … 38%
 - 検定試験の受験 … 24%
 - 将来についての個別相談 … 17%
 - 講習会への参加 … 8%
 - その他 … 35%
- (3)利用満足度
- とても役に立った … 33%
 - 少し役に立った … 55%
 - あまり役に立たなかった … 11%
 - 全く役に立たなかった … 1%

(4)学生からのコメント

- ・質問できる場所があるのはとても助かります。
- ・勉強面でサポートしてくれるのもっと活用したいです。
- ・演習問題がたくさんあって充実しているので、もっと取り組みたい。
- ・図書館ほど静かすぎず、友達と教え合いながら自習ができるので勉強がはかどります。
- ・資格や就職試験の勉強など、学生のニーズに応えてくれている場所なので更に発展して欲しい。
- ・マナー講座や企業見学など、普段一人ではなかなか体験できないことを体験できる講座がありとてもためになっているので、もっと増やして欲しい。

調査結果及び日頃の利用状況に対するOGメイトのコメント

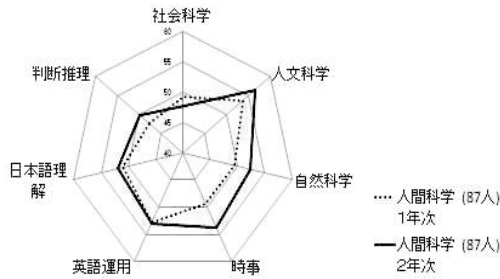
回答数は少ないが、利用した学生からはポジティブな評価が多く、有効に使われているということがわかった。とりわけ3年生は、SPI試験に向けての勉強の仕方を教えて欲しいと訪れる学生が多く、数学、英語、日本語表現すべてにおいて、基礎から応用までわかりやすくまとめたオリジナルの演習問題集は取り組み易いと好評である。

学生がスタディコンサルタントを囲み、活発に質問を交わしている光景も見られた。

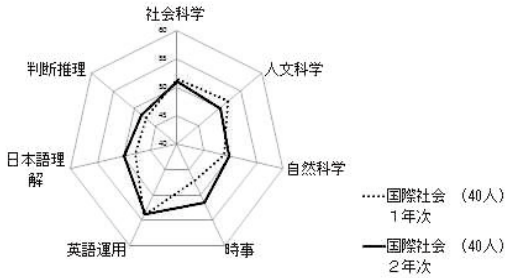
◆資料5 1年次から2年次にかけて基礎学力はどれだけ伸びたか(全国偏差値による)

(注)両年次とも受験した学生のデータを分析したものである。

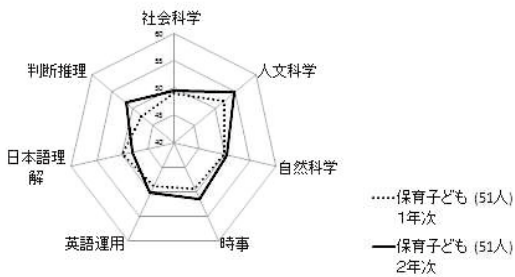
人間科学科の場合



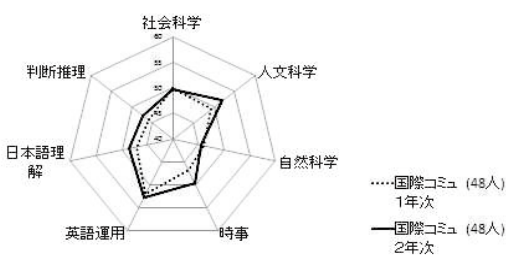
国際社会学科の場合



保育子ども学科の場合

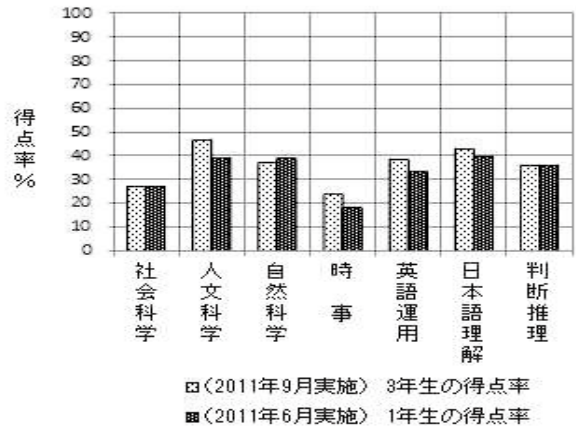


国際コミュニケーション学科の場合



◆資料6 1年生と3年生の基礎学力の比較(得点率のみ)

(注)実施日が異なる両テストは内容が違っているので厳密な比較はできない。



◆資料7 内定率の月別推移

年度	2010年3月卒業生	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月
	2009年度	内定率	30%	38%	46%	53%	57%	62%	72%	79%	93%
	内定者数	146	187	223	255	274	296	340	367	404	407
	就職希望者	491	487	487	485	479	479	472	467	435	429
	卒業予定者	528	528	528	527	527	527	527	527	503	503
2010年度	2011年3月卒業生	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月
	内定率	25%	34%	46%	52%	55%	61%	71%	77%	90%	92%
	内定者数	134	187	250	280	297	327	383	407	453	459
	就職希望者	546	545	545	543	541	540	539	531	501	498
	卒業予定者	597	597	597	596	593	593	593	593	568	568
2011年度	2012年3月卒業生	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月
	内定率	16%	24%	36%	47%	54%	66%	71%	80%	89%	※
	内定者数	82	124	184	237	273	334	360	399	422	※
	就職希望者	515	515	508	507	510	506	506	501	473	※
	卒業予定者	599	599	599	599	599	599	599	599	561	561

(注)本事業の対象学年は2011年度(2012年3月)卒業生から、それ以前の卒業生は対象外。

◆資料8 就職内定者の雇用形態と満足度

卒業年度		雇用形態		合計
		正規雇用	契約社員 派遣社員	
10年度卒業生	度数	395	36	436
	割合	91%	9%	100%
11年度卒業生	度数	358	29	390
	割合	92%	8%	100%
合計	度数	753	65	826
	割合	91%	9%	100%

卒業年度		満足度			合計
		おおいに満足	まあ満足	不満	
10年度卒業生	度数	262	156	12	430
	割合	61%	36%	3%	100%
11年度卒業生	度数	242	143	4	390
	割合	62%	37%	1%	100%
合計	度数	504	299	16	820
	割合	62.0%	36%	2%	100%

(注)本事業の対象学年は2011年度(2012年3月)卒業生。2010年度卒業生は対象外。

◆資料9 自分ブランドをみがくセミナー & 企業見学会
 <自分ブランドをみがくセミナー 第1回>

講座名	日時	参加人数	内容
メイクアップ セミナー	6月8日	30人	デモンストレーションを通して、スキンケアの大切さ及びベースメイクのスキルアップを実践的に学ぶ
	6月9日		
声美人で 人生を楽しもう	6月22日	12人	発声練習を通して本来の声の出し方を体得し、話し方の基本を現役アナウンサーから学ぶ
CA志望者のための 印象アップ術	6月23日	18人	CAへの夢を実現させる第一歩として、第一印象の好感度を上げるためのポイントを実践を通して学ぶ
心理テストで 自分発見!	6月29日	6人	心理テストを使って自分の性格傾向を知る。興味のある職業とテストの結果を照らし合わせ、その職業に就くためにはどういう性格を伸ばしていけばよいかを探る

<自分ブランドをみがくセミナー 第2回>

講座名	日時	参加人数	内容
色のモノサシで 知る本当の自分	11月9日	13人	自分が他人からどのように見られているかを知り、より良い自分に見せるためにパーソナルカラーをどのように役立てるかを学ぶ
素肌美人になろう	11月14日	5人	顔の筋肉や皮膚の構造、化粧品成分の役割等を理解した上で、スキンケアの実践を学ぶ
	11月28日	4人	
CA志望者のための 印象アップ術	11月24日	3人	CAへの夢を実現させる第一歩として、第一印象の好感度を上げるためのポイントを実践を通して学ぶ

◆資料10 企業見学会

企業見学会実施一覧 (プログラム企画・引率: キャリアコンサルタント)

内容と 見学先	業界	実施日	実施場所	人数	目的
事前講習		2011年7月20日 22日	スタディカフェ	25名	企業選定や調査の手法・服装やマナー・お礼状の書き方・自己紹介の手法など、就職活動の基本スキルを知る。
ラジオ日経 (虎屋)	放送 (製造)	2011年7月26日	赤坂スタジオ	4名	放送業界の現場を知る、アナウンサー業の実態を知る。
ホテル日航 東京	サービス	2011年7月28日	お台場	9名	サービス業の現状を知る、高級サービスの実態を経験する。
武蔵境自動車 教習所	サービス	2011年9月7日	武蔵境	6名	サービス業の現場を知る、優良中小企業の実態を知る。
株式会社 アルピオン (熊谷工場)	化粧品	2011年9月14日	熊谷	10名	製造業(化粧品)の現場を知る、女性が活躍できる職種について理解する。
事後報告会		2011年9月20日	スタディカフェ	24名	経験や見解を文章化し、伝える能力を高める。



素肌美人になるための実践講座



CA志望者のための印象アップ術講座



心理テストで自分発見!



スタディカフェで事前講習会
見学先企業についての下調べを発表しあう



ラジオ日経にて
番組収録後の経営者にお話を伺う



武蔵境自動車教習所にて
サービスについてお話を伺う

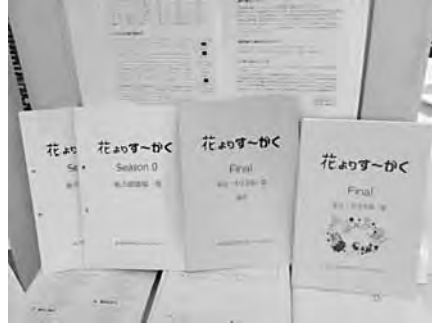


スタディカフェで事後講習会
見学先企業での学びを発表用ポスターにまとめる

◆資料 11 スタディカフェ



◆資料 12 オリジナルの問題集



評価結果

評定：S

評定理由(総論)

入学時の初動教育から一貫した取組がなされている点は特に優れている。OGを活用したプログラムは本大学の校風や教育理念が浸透し有効性が高

く、特徴として評価される。計画も緻密で、周知徹底も図られている。就職未内定者への支援では、現実を見極めさせ気付きを与える指導、支援は優れている。自己評価の観点も明確で方法も妥当であり、全体として適切な評価が行われている。

実地視察報告

視察日:2012(平成24)年9月18日(火)



総評

取組み名称のとおり「卒業生の活用」を通して、「就職の早期意識化」及び「基礎学力の強化」を図るという本プログラムは、「スタディカフェ」というかなり大きな部屋での様々な活動に現れている。就職相談員(OG)を配置したブース群と、数学、英語、日本語表現のためのブース群があり、卒業生講演会などと組み合わせた活動に学生は反応している。卒業生のライフコース調査や独自に作成したオリジナル問題集もうまく工夫され活用されている。

一年生必修の科目『キャリア設計』では、「就活ポートフォリオ」の活用法を学ばせ、キャリア形成に対する早期の意識化に役割を果たしている。この科目担当の教員の連携、努力と工夫を重ねる熱意には敬服するものがある。学生中心の「ブッククラブ」やスタディコンサルタントの配置など、学生にポジティブに働いている。

事業成果の報告書、冊子なども適切に揃えられており、各種の活動の有機的な繋がりがあり、全体として統一的に企画され、把握されていること

が見られた。

このプログラムは、様々な活動(就職のための学生支援と基礎学力の強化)を結びつけ、それらの相乗効果が発揮され、大学としての教育機能の強化を進めるという点で、特徴のあるものとなっている。

プログラム全体にも個々の活動にも、緻密できめ細かい配慮がなされており、大学当局、教員、職員が一体となった取組みであることが見られた。また、学生のプログラム参加、プログラムへの高い評価があることも感じられた。